

DATEDIF関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

DATEDIF関数は「隠れキャラ」

DATEDIF関数は「隠れキャラ」

DATEDIF関数は、開始日から終了日までの「期間」を計算する関数ですが、Excelの入力候補（サジェスト）には出てきません。そのため、手打ちで正確に入力する必要があります。まずは基本形をマスターしましょう。

=DATEDIF(開始日, 終了日, 単位)

引数	内容	注意点
① 開始日	期間の始まりとなる日付	セル参照（例: A1）や、DATE関数などで指定します。
② 終了日	期間の終わりとなる日付	「開始日」より後の日付でないとエラーになります。
③ 単位	計算したい単位	"Y" や "M" などを指定（※次のスライド参照）。必ずダブルクォーテーション（"）で囲みます。

【最重要】「単位」早見表

【最重要】「単位」早見表

DATEDIF関数を使いこなすには、この6つの単位を使い分けることが全てです。

単位	計算されるもの	具体例（2020/1/1～2023/3/1の場合）
"Y"	満年数	3（3年経過）
"M"	満月数	38（38ヶ月経過）
"D"	日数	1155（1155日経過）
"YM"	1年未満の月数	2（3年と2ヶ月）
"YD"	1年未満の日数	59（3年と59日）※うるう年に注意
"MD"	1ヶ月未満の日数	0（3年2ヶ月と0日）※誤差が出やすいため非推奨

 **ポイント：**よく使うのは "Y"（年齢・年数）と、端数を出す "YM"（ヶ月）です。

【実践①】 「満年齢」を自動計算する

【実践①】「満年齢」を自動計算する

生年月日から、現在の年齢を自動計算する定番のテクニックです。

シナリオ： A2セルに「生年月日」が入力されている。今日の時点での年齢を出したい。

数式： `=DATEDIF(A2, TODAY(), "Y")`

解説： 終了日に `TODAY()` 関数を入れるのがコツです。

これにより、ファイルを開くたびに自動的に「今日時点の年齢」に更新されます。

【実践②】
「勤続年数」を "〇年〇ヶ月" で表示

【実践②】 「勤続年数」を "〇年〇ヶ月" で表示

「年」と「月」をつなげて表示したい場合、& (アンド) を使って2つのDATEDIF関数を結合します。

シナリオ: A2セル(入社日)から B2セル(退社日)までの期間を、「〇年〇ヶ月」の形式で表示したい。

数式: =DATEDIF(A2, B2, "Y") & "年" & DATEDIF(A2, B2, "YM") & "ヶ月"

解説:

1. 前半: DATEDIF(..., "Y") で「年数」を計算
2. 後半: DATEDIF(..., "YM") で「年数を除いた残りの月数」を計算。
3. アンパサンド(&)で文字("年","ヶ月")と結合して完成！

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。